

日本教職員バドミントン連盟（JEF）の歩み

JEF 誕生前から第40回大会まで

JEF NEWS 第69号（平成13年夏季号）より抜粋

文責 JEF顧問 里見光徳

1954年（昭和29年）

この年、東京都において高等学校ばかりでなく中学校にもバドミントンを始めた学校が出来たので、中学校のバドミントン大会を開催することになった。聖学院中・高等学校でバドミントンを指導されていた今井先生^{はじめ}が、その大会開催を呼びかけた。大会に参加した主なところは男子では聖学院中（今井先生）、台東区立竜泉中（平田登志郎先生）、麻布中（安楽末夫先生）などで、女子では女子聖学院中（佐野美代子先生）、十文字中（大塚直先生）など数校が集まってきたのである。

そこで東京都中学校体育連盟の傘下にバドミントン部を創立することとなった。今井先生を中心に平田先生などがその中心になったのである。また、都中体連の理事であった川上・古梶両先生の的確なご指導やご助言もあり、また、今井・平田両先生の熱意によって加盟申請は都中体連理事会において、満場一致の承認が得られたのである。時は昭和30年3月30日であった。このことがきっかけとなり、東京都内でバドミントンを指導している教員の組織を結成する気運が高まってきたのである。

また一方では、大田区立大森第四中学校へ教育実習生として小泉伸坦氏が配属された。バドミントン部の顧問であった池田昌道先生の依頼により、クラブ活動としてのバドミントン部を指導することになった。このことが縁となり、教育実習終了後も引き続き指導を依頼された。

小泉・里見光徳両名（東京学芸大学の同期生）が出かけて指導したのもこの年である。このとき、この中学校の2年生に在籍していた少年に、後の本連盟機関誌「JEF NEWS」編集長になった本間研一氏がいたのである。選手として活躍した人である。このことが縁となり、彼が今井先生に紹介したのがであった小泉・里見両名だったのである。

その年の9月、今井先生の勤務先である聖学院高校に平田、池田、大塚、小泉、里見の他数人の先生が招集され、毎週土曜日に定期的に練習会を始めることになった。また、女性として諸田みやこさん（日本女子体育短大学生）もおられた。この時集まったメンバーが後のBFC（Bird Friends' Club）の中心的人物になったのである。また、後の東京都教職員バドミントン連盟（TEF）、日本教職員バドミントン連盟（JEF）の組織作りの原動力にもなったのである。

1956年（昭和31年）

東京都の教員の組織（BFC）は毎週の練習会で今井先生を中心に団結していった。だが、視野を東京ばかりでなく、他の道府県にも向けなければならないという使命感があった。全国各地でバドミントンの普及発展に地道な努力をされている人の中には、何といても我々教員の仲間が多数を占めていることは言うまでもない。そのような教員の指導者がお互いに連絡をとりあい、日頃の体験や研究を持ち寄って、指導者の研修をする場や組織などを作れば、もっと日本のバドミントンは向上すると考えた。そのためには、その方々と直接お目にかかり、技術や意見の交換をする必要があり、それには我々から積極的にそこに出かけ、意思の疎通をはかることに意義を感じたのである。かくして毎年、夏休みを利用してラケットを持ち、各地を転戦しながら同好の志を求めることになったのである。

この年は、仙台・室蘭・富川・札幌と北へのコースをとった。仙台では名門尚綱女学院

で、室蘭では佐藤哲郎先生に、また札幌では奈良岡健三先生を始め小飼栄一・神山周二諸氏に大歓迎を受けた。特に、この札幌での樽ごと出された生ビールの旨さは、今もって語り草になっている。富川では牧歌的な富川高校体育館で合宿し、技術面ばかりでなくバドミントン理論の研修にも励んだのである。

1957年（昭和32年）

前年同様、夏休みになると早速ラケットを持ち、先ず岡山に出かけた。そこでの名門山陽女子高校にて毛利清志・山上周之・西崎正明諸先生方と試合や懇談会を行なった。次に四国高松に渡って穂山正雄先生を訪たり、さらに瀬戸内海を夜、航海しながら別府に上陸、宮崎・鹿児島と観光を楽しみながら熊本へと入った。ここでは伊藤基記先生のお世話で試合やら交歓会など行ない、教員の組織を創ることに深い理解を示していただいた。このとき、熊本商科大学の学生であった徳重氏（後にカールトン社勤務）には、我々一行のために付ききりで面倒を見ていただいたことを大変感謝している。その後、長崎に行ったが台風に遭い、旅館に閉じ込められ、日程を遅らせて広島から松江へと向かい、全国高校大会を見学したのである。

1958年（昭和33年）

この年の夏、新潟へ出かけて全国高校大会を見学し、さらにこの地で合宿をした。ここでは市嶋智三郎先生にお目にかかり、新潟の先生方と交流を深めていった。その後、佐渡に渡りバドミントンに大変熱心な臼杵先生にお会いできた。すっかり意気投合してバドミントンについて大いに語り、お互いに将来の日本教職員バドミントン連盟の結成を約束し、お別れしたのである。

聖学院における定例練習会に平田先生が新人紹介をした。当時、台東区立竜泉中学に赴任した前田耕作先生である。その頃の組織BFCのメンバーになるためには練習会でメンバーに紹介し、仲間として共にやってもらえるかどうかを一定期間お付き合いして入会を決めていたのである。少数精鋭で努力するしかない時代で、それまでも何人かが紹介されたが、長続きしなかった。その点、彼は素晴らしい才能とファイトで我々の一員となつたし、その後我々組織の重要な人物となつたのである。

1959年（昭和34年）

我々のこのような地道な努力は、多少なりとも影響を及ぼしたのか、あるいは時代の趨勢によるものか、この年から国民体育大会のバドミントン種目の中に「教員の部」が設けられ、ようやく一つの念願がかなったかのように思えた。

他の競技団体でも同様であるが、それぞれの競技での初期の段階では、というより昭和20～30年代では教員に実力があり、普及の原動力でもあり、それに加えて練習時間が生徒指導という名目であれ豊富であり、一般の者ではとてもかなわないという状況にあった。そのため一般男子の種目の中から締め出さないと勝負にならないという一面もあつたのである。

このような状況の中で、我々日本教職員バドミントン連盟は日本バドミントン協会に加盟申請をしたが、仲間と思っていた教員から反対され受け入れられなかった。国体の「教員の部」があるのに、更にその上「教職員大会」を開催する必要はないと言うのである。その時の反対理由の説明で“屋上屋を架する”と言う言葉が、今でも記憶に生々しい。

1960年（昭和35年）

我が国のバドミントンの普及発展は目覚ましいものであつた。しかし、今日の発展は全国各地で地道に努力してきた我々教職員指導者によるところ大であると自負している。『全国の教職員が一体となり、日頃の体験や研究を持ち寄って研修の場と組織を作ろう』との声が各地であつた。着々としてその基礎固めをしてきたし、全国各地には教職員の全国組織

の必要性を理解して活躍していた篤志家も多かった。それにもかかわらず“日本バドミントン協会”の承認を得られなかった理由は何であるかを検討せざるを得なかった。

この年には、地方に出ることなく都内の教職員の組織や関東の教職員の組織固めに努力した。

特に国体では教員の部の資格が小・中・高の常勤教員のみと限定されていた。それがあまりにも厳しいのでバドミントンを指導している事務教員、教育委員会勤務者、大学教職員、その他教育機関なら講師でも助手でも参加できるようにしようと我々連盟の参加資格の共通理解を持ったのである。それ以来、広い範囲の指導者（教職員）で組織化する連盟となるような基本構想としたのである。

1961年（昭和36年） 日本教職員バドミントン連盟（JEF）結成の年

昭和21年日本バドミントン協会が創設されて以来半世紀以上も経過した今日、わが国のバドミントンの普及発展は目覚ましいものであった。しかし、今日の発展は、全国各地で地道に努力してきた我々教職員指導者によるところが大であると、自負するものである。

『全国の教職員が一体となり日頃の研究や体験を持ち寄っての研修の場と組織をつくろう』との声は1956～57年頃から各地であったが、特に、東京都教職員バドミントン連盟（TEF）や当時の『同好の志の集い』であったBFCの間に活発化し、彼らは研修旅行と啓発を兼ねて全国各地を旅行し、着々その基礎固めをしていたのである。勿論、これと時を同じくして全国各地に教職員の全国組織の必要性を唱えて活躍していた篤志家も多かったのである。

時に、1961年（昭和36年）日本バドミントン協会の新理事長森友徳兵衛氏は意欲的に協会の機構作り奔走し、折から胎動しつつあったわが教職員連盟に対し、その労を惜しまずこの年の9月30日、遂に本連盟が誕生したのである。（同10月7日の日本バドミントン協会の臨時総会において正式に承認された）全国各地にある先達者諸氏の営々孔々たる努力がついに実ったのである。

我々はわれらの組織を『日本教職員バドミントン連盟』

[JAPAN EDUCATORS ' FEDERATION (略称JEF)]

と名付けた。会長には栗本義彦氏（日本体育大学学長）を推戴、平田登志郎氏（当時文京区立第二中学校）が初代理事に就任した。

1962年（昭和37年）

第1回 全国教職員大会・東京都で開く 文京区

第1回 全国指導者研修会が同時に開催される

第1回全国教職員大会は東京都文京区立第二中学校体育館において、北海道、秋田、栃木、群馬、千葉、東京、静岡、岐阜、石川、大阪、岡山、山口、熊本の13都道府県からの精鋭が集まった。

第1回全国学校体育指導者研修会は第5次日本協会指導者研修会として同校で開催、高倉正治氏（日バ常務理事）から「バドミントンの国際関係」について、今井先氏（二階堂高校教諭）から「競技規則と大会運営規定」について、平田登志郎氏（JEF理事長）から「中学校におけるバドミントンクラブの現状と展望等」について解説や講義、そして討論が展開された。また、将来JEFの二大事業として全国教職員大会と全国指導者研修会が毎年行われることが可決された。なお、この年に『バドミントン体育』（後に教職員連盟機関誌）が創刊された。

1963年（昭和38年）

第2回 全国教職員大会・群馬県で開催 桐生市

第2回 全国指導者研修会を開催

群馬県桐生市立商業高校と桐生高校を舞台に開かれた。群馬県バドミントン協会の理事

長増田保夫氏の積極的な協力を得て女子の参加が増える。前回に加えて新潟と神奈川の両県が参加、かなり盛況であった。

1964年（昭和39年）

第3回 全国教職員大会・三重県で開催 伊勢市

第3回 全国指導者研修会を開催

三重県伊勢市県立体育館において開催、参加都道府県は18であった。この大会の特徴は多くのニューフェイスが登場した。男子に渡部・永井（新潟）、酒井（大阪）、佐藤（青森）、女子には高木・天野（岐阜）、小勝（栃木）など、各種目によって活躍し、大会の内容を充実させた。この年、高木・天野両選手はユーパー杯候補選手に選ばれた。また、伊藤基記氏（熊本）は社会人大会40歳単において10連覇の偉業を成し遂げた。

1965年（昭和40年）

第4回 全国教職員大会・大分県で開催 日田市

第4回 全国指導者研修会を開催

大分県日田市県立日田高校と昭和女子高校において開催された。この回から従来の種目に男子団体と女子団体が加わった。参加都道府県は20になる。男子団体戦出場は秋田、千葉、東京、富山、岐阜、大阪、岡山、愛媛、熊本の9都府県、女子は1チーム（岐阜）であった。

第1回の男子団体は岡山県が優勝した。

1966年（昭和41年）

第5回 全国教職員大会・北海道で開催 札幌市

第5回 全国指導者研修会を開催

北海道札幌市体育館において開催される。冬季オリンピックを期して活況を呈していたこの地での大会は、いやが上にも熱気を帯びていた。特に地元北海道は男子団体5チームを編成して参加した。

この年は、日本女子チームがユーパー杯に初出場し、10年不敗のアメリカチームを5-2で下し、初優勝した輝かしい年である。

また、開催県より大会と研修会を併設するのは負担が多いので免除してほしいとの要望があり、JEF研修会は日バ主催の研修会と合同主催することになり、日バ主催の時期と場所に参加することになった。

1967年（昭和42年）

第6回 全国教職員大会・富山県で開催 高岡市

万葉の景勝地富山県高岡市県立高岡高校と県立高岡工芸高校の両会場で行われたのが、今回から成壮年代団体が加わり参加者は空前の数にのぼった。参加都道府県数20、初の成壮年代団体は東京都が優勝した。

『バドミントン体育』が本連盟の正式機関誌となり、発行責任者平田理事長が決まる。『バドミントン体育』も第13号を数え、名実共に内容も充実して行った。

JEFの運営をより能率的にするため5専門部（普及、指導、審判、編集、事業）を設置した。これら専門部のもとに10ブロック（北海道、東北、関東、京浜、東海、北信越、近畿、中国、四国、九州）に理事を置き、運営に協力するという態勢が整う。

事業部がシャトルの斡旋をはじめ。水鳥シャトルが入手困難な地方の方々のため、廉価で送付することを業者の協力を得て実施する。

『バドミントン体育』13号（春季号）、14号（夏季号）、15号（秋季号）、16号（冬季号）を発行

1968年（昭和43年）

第7回 全国教職員大会・大阪府で開催 大阪市
大阪市立体育館において開催される。参加都道府県21

明年、東京で行なわれる第5回ユーパー杯防衛戦に本連盟関係者の今井先氏が監督に、毛利清志氏がコーチに就任、また、選手も高木紀子さん、天野博江さんが選手に選考された。

J E Fマークを公募する。本連盟を象徴するいわゆるJ E Fマークを作るべく執行部で検討、機関誌「バドミントン体育」を通して公募したところ、4点を佳作とするが採択にはならなかった。採択は1973年。

1969年（昭和44年）

第8回 全国教職員大会・埼玉県で開催 上尾市
埼玉県上尾市運動公園体育館において行なわれる。参加都道府県23

第5回ユーパー杯争奪選手権大会は4ゾーンの勝者イングランド・アメリカ・インドネシア・タイとの間で争われ、インドネシアが挑戦国になった。しかし、日本チームは高木紀子主将を中心にインドネシアを一蹴し、初防衛に成功した。

日本バドミントン協会は、ユーパー杯に優勝したことを記念して『バドミントン界』を出版することになった。その編集にわが連盟の機関誌『バドミントン体育』のスタッフが協力を求められ、協議の結果、これに協力することになった。そのため連盟機関誌『バドミントン体育』は『バドミントン界』に吸収・合併することになり、『バドミントン体育』はこの年を持って廃刊とする。(しかし、一年後本連盟の編集方針と趣旨に合わず決別する。この間機関誌途絶える)

『バドミントン体育』21号(春季号)、22号(夏季号)を発行し、終了する。

『バドミントン・ハンドブック』(第1編)…競技規則100問集…、初版発行(1969.10.25)

1970年（昭和45年）

第9回 全国教職員大会・岐阜県で開催 岐阜市
岐阜県民体育館において行なわれる。参加都道府県23

昨年見事ユーパー杯を防衛した今井先、毛利清志、高木紀子、天野博江の4氏を教職員連盟より特別表彰をし、その功労を称える。

来年度より成壮年団体戦が日本バドミントン協会の正式種目に認められた。

1971年（昭和46年）

第10回 全国教職員大会・岡山県で開催 岡山市
岡山県営体育館・岡山大学体育館において行なわれる。参加都道府県23

10周年記念に当たり栗本義彦、今井先、森友徳兵衛、毛利清志の4氏に感謝状をさし上げる。

乾英三郎、松本弘充、北方匡、毛利清志、西崎正明、宝来敏夫、宮脇正晴、北野敬四郎、片岡輝明、鈴木祐司、以上10名を表彰する。

1972年（昭和47年）

第11回 全国教職員大会・秋田県で開催 秋田市
秋田県立体育館において行なわれる。参加都道府県22

本年度のJ E F総会において、今年度をもつて初代理事長平田登志郎氏が勇退し、第2代理事長に里見光徳氏を選出した。

『バドミントン・ハンドブック』（第Ⅱ編）…大会運営規定100問集…、初版発行（1972.7.10）

1973年（昭和48年）

第12回 全国教職員大会・滋賀県で開催 大津市
滋賀県立体育館において行なわれる。参加都道府県27

先に公募したJEFマークは採択されないまま、保留となっていたが専門家（桐朋女子高等学校美術科教諭・松本文夫氏）にそのデザインを依頼していた。

出来上りの作品を検討、理事会の承認を経て「JEFマーク」に正式採択することにした。さらに、このマークで連盟旗を製作し、明年よりJEF大会の会場に掲揚し会員に披露することになった。



1974年（昭和49年）

第13回 全国教職員大会・熊本県で開催 熊本市
熊本市立体育館において行なわれる。参加都道府県34

本大会の成績に基づいて作製されるランキング中、個人戦一般の部、各種目8位以内にランクされた者は1974年度全日本総合バドミントン選手権大会への出場権が拡大された。

本連盟会長栗本義彦氏が亡くなられ、柴田勝治氏（日本大学総長・理事長）が第2代会長に就任された。

『バドミントン・ハンドブック』（第Ⅲ編）…審判法100問集…、初版発行（1975.1.25）

1975年（昭和50年）

第14回 全国教職員大会・栃木県で開催 小山市
栃木県立小山城南高校体育館・昭和アルミ体育館において開く。参加都道府県31

昭和37年度に創刊された本連盟機関誌『バドミントン体育』は昭和44年に日本バドミントン協会機関誌『バドミントン界』協力すべく、吸収・合併され発展的に解消したが、教職員としての立場から考え、やはり『バドミントン界』とは違ったものが要求されるようになった。

従来の大会開催の時だけが唯一の会員交流の場でなく、JEF会員の研修の場、また情報伝達・交歓の場として会員相互の親睦も併せて考えられるものとして、新たに『JEF NEWS』（年4回）を発刊することになった。発行責任者として里見光徳理事長が、編集長に本間研一氏が就任した。毎年10月、1月、4月、7月の20日を発行日とする。

『JEF NEWS』創刊号（秋季号）（1975.10.20）第2号（冬季号）を発行

1976年（昭和51年）

第15回 全国教職員大会・東京都で開催 世田谷区

世田谷区駒沢オリンピック記念公園体育館、大田区体育館、千代田区体育館、二階堂高校体育館において開く。参加都道府県30

『JEF NEWS』3号（春季号）、4号（夏季号）、5号（秋季号）、6号（冬季号）を

発行

表彰規定成立 1人100円

1977年（昭和52年）

第16回 全国教職員大会・山口県で開催 山口市

下関市体育館において開く。参加都道府県35

大会期間中雷雨があり変電所が浸水したため、2時間ほど停電して競技が中止した。

『JEF NEWS』第9号（昭和52年秋季号）から、右綴じ縦書きの紙面を左綴じ横書きの紙面に変更し、英文などを入れやすくした。

『JEF NEWS』7号（春季号）、8号（夏季号）、9号（秋季号）、10号（冬季号）を発行

『バドミントン・ハンドブック』（合併号）ミ競技規則・大会運営規定・審判法を合冊した初版本発行（1977.4.4）

1977年（昭和52年）

第16回 全国教職員大会・山口県で開催 山口市

下関市体育館において開く。参加都道府県35

大会期間中雷雨があり変電所が浸水したため、2時間ほど停電して競技が中止した。

『JEF NEWS』第9号（昭和52年秋季号）から、右綴じ縦書きの紙面を左綴じ横書きの紙面に変更し、英文などを入れやすくした。

『JEF NEWS』7号（春季号）、8号（夏季号）、9号（秋季号）、10号（冬季号）を発行

1978年（昭和53年）

第17回 全国教職員大会・宮城県で開催 仙台市

宮城県スポーツセンター、尚綱女学院体育館、仙台商業高校体育館、第一女子体育館において開く。参加都道府県34

JEF表彰は5年毎であったが、次回より毎年該当者を表彰することになった。

本年1月、世界バドミントン連盟（WBF）設立される。中国など19ヶ国で結成、国際バドミントン連盟（IBF）と別個の組織が出来た。このためバドミントンはオリンピックに加盟することは不可能になった。

『JEF NEWS』11号（春季号）、12号（夏季号）、13号（秋季号）、14号（冬季号）を発行

1979年（昭和54年）

第18回 全国教職員大会・福岡県で開催、北九州市 第1回懇親会を開く

北九州市総合体育館において開く。参加都道府県39

昭和34年から国民体育大会バドミントン種目の中に設けられていた“教員の部”が本年度をもって廃止されることになった。その理由として国民体育大会は年齢・性別によって区分すべきであって、教員という職域で分けてはならないという日本体育協会からの指示があったからである。日本バドミントン協会はその処置として本年度（宮崎県）は教員の部を全都道府県の本大会出場をさせ終了し、来年度国体成年男子の部に教員を1名以上参加させることが決まった。

『JEF NEWS』15号（春季号）、16号（夏季号）、17号（秋季号）、18号（冬季号）を発行

1980年（昭和55年）

第19回 全国教職員大会・石川県で開催 金沢市 第2回懇親会を開く
石川県体育館、金沢大学体育館において開く。参加都道府県 30

『JEF NEWS』19号（春季号）、20号（夏季号）、21号（秋季号）、22号（冬季号）を発行

『バドミントン・ハンドブック』（合併号）、第2版発行（1980.10.28）

1981年（昭和56年）

第20回 全国教職員大会・福島県で開催 郡山市 第3回懇親会を開く
郡山総合体育館、安積女子高校体育館において開く。参加都道府県 31
JEF大会テレビ放映される。約2時間に渡り、福島テレビから女子複決勝戦が3ゲーム全部放映された。

個人登録費 500円

『JEF NEWS』23号（春季号）、24号（夏季号）、25号（秋季号）、26号（冬季号）を発行

JEF NEWS 24号（夏季号）は創立20周年特別記念号となる。

1982年（昭和57年）

第21回 全国教職員大会・佐賀県で開催 嬉野市 第4回懇親会を開く
嬉野町体育館、嬉野商業高校体育館において開く。参加都道府県 31
本年4月、日本バドミントン協会は財団法人となる。

『JEF NEWS』27号（春季号）、28号（夏季号）、29号（秋季号）、30号（冬季号）を発行

JEF NEWS 編集を充実させるため、新たに編集局を設け大塚直氏が編集局長になる。

1983年（昭和58年）

第22回 全国教職員大会・静岡県で開催 沼津市 第5回懇親会を開く
沼津市民体育館、沼津勤労者体育センターにおいて開く。参加都道府県 33
大会期間中大きな地震があり、試合が一時中断した。地震直後自動的に体育館内各扉が閉まり、復旧するのに30分ほど時間を要した。

『JEF NEWS』31号（春季号）、32号（夏季号）、33号（秋季号）、34号（冬季号）を発行

1984年（昭和59年）

第23回 全国教職員大会・青森県で開催 弘前市 第6回懇親会を開く
弘前市民体育館、東奥義塾体育館において開く。参加都道府県 27
この年、来年度の役員改選にあたり、理事長里見光徳が日本バドミントン協会の常務理事（指導委員会委員長）を兼務しているのはおかしいと言う理由で、どちらかを辞めるように緊急動議が出た。そこで、理事会では、今年度をもってJEF理事長里見光徳が退任、新たに小泉直坦氏が第3代理事長に選任し、来年度の総会で諮ることになった。

個人登録費 1,000円

『JEF NEWS』35号（春季号）、36号（夏季号）、37号（秋季号）、38号（冬季号）を発行

1985年（昭和60年）

第24回 全国教職員大会・福井県で開催 福井市 第7回懇親会を開く
福井県営体育館、県立科学技術体育館において開く。参加都道府県34
JEF NEWS 発行責任者は小泉直坦理事長に代わる。
『JEF NEWS』39・40号（春・夏合併号）を発行

1986年（昭和61年）

第25回 全国教職員大会・広島県で開催 広島市 第8回懇親会を開く
広島サンプラザ体育館において開く。参加都道府県32
本年度のJEF総会において、今年度をもって第代理事長里見光徳氏が勇退し、第3代理
事長に小泉直坦氏を選出した。
男子50才代参加数が増加し、来年度から男子60才以上単複の種目が新設された。た
だし、この年代になると職場を定年退職する人もあり、長年JEF大会に出場している人
には、準会員として出場することを認めた。
『JEF NEWS』40号（夏季号）を発行 {本来は41号}

1987年（昭和62年）

第26回 全国教職員大会・北海道で開催 第9回懇親会を開く
苫小牧市総合体育館・苫小牧工業高校体育館において開く。参加都道府県30
『JEF NEWS』38号（夏季号）、39号（秋季号）を発行 {本来は42、43号}

1988年（昭和63年）

第27回 全国教職員大会・奈良県で開催 奈良市 第10回懇親会を開く
奈良市中央体育館、育英高校体育館において開く。参加都道府県37
『JEF NEWS』40号（春季号）、41号（夏季号）を発行
JEF NEWS 発行責任者は次年度より前田耕作理事長に代わる。

1989年（平成元年）

第28回 全国教職員大会・香川県で開催 坂出市 第11回懇親会を開く
坂出県営体育館において開く。参加都道府県36
『JEF NEWS』42号（春季号）、43号を発行
本年度のJEF総会において、今年度をもって第3代理事長小泉直坦氏が勇退し、第4代
理事長に前田耕作氏を選出した。

1990年（平成2年）

第29回 全国教職員大会・岩手県で開催 盛岡市 第12回懇親会を開く
岩手県営体育館、厨川体育館において開く。参加都道府県36
次回より本連盟の2大行事である研修会を復活、競技開始前に開催することになった。
『バドミントン・ハンドブック』（合併号）、改定版発行（1990.9.1）
『JEF NEWS』44号、45号を発行・

1991年（平成3年）

第30回 全国教職員大会・愛知県で開催 豊橋市 第13回懇親会を開く。
同研修会「日本のバドミントンの将来と問題点」遠井稔男・片岡輝明・佐藤秀夫・藤上

良信 4 氏共同講演、司会平田登志郎氏

豊橋市総合体育館において開く。参加都道府県 3 9

今年度を持って混合複の種目が廃止される。日本バドミントン協会から教員大会の種目が多く、個人戦は社会人大会に参加し、団体戦のみにするよう言われていたが、教職員という特殊性より個人戦も団体戦も継続することになった。しかし、混合複のみは日バで新たに設けた混合複大会に吸収合併することになり、来年度の教員大会からは廃止することになったのである。

また、開催県からこの混合複のタイムテーブルが組みにくく、どうしても総ての個人戦が終わらないと出来ないという事情もあった。

『J E F NEWS』46 号、47 号を発行

JEF NEWS 47 号 (H3.8j0 発行) は創立 30 周年特別記念号となる。

この号から発行責任者兼編集責任者前田耕作氏となる。

特別功労賞 (30 年連続大会参加) 鈴木祐司氏 (選手として)、里見光徳 (役員として)

1992 年 (平成 4 年)

第 31 回 全国教職員大会・熊本県で開催 熊本市 第 14 回懇親会を開く

同研修会「メンタルトレーニングについて」岩崎健一氏 (熊本大学教授) 講演

熊本県総合体育館において開く。参加都道府県 4 3

大会開催初日に熊本県地方台風に見舞われ、開催が危ぶまれたが特に会場等には支障なく、予定を多少遅らせた程度で行なわれた。しかし、沖縄からの交通が遮断され、その為選手が間に合わず参加できなかったのは残念である。

『J E F NEWS』48 号 (春号)、49 号 (秋号) を発行

1993 年 (平成 5 年)

第 32 回 全国教職員大会・神奈川県で開催 平塚市 第 15 回懇親会を開く

同研修会「指導者のあり方」杉田博氏・中山 (高木) 紀子氏対談講演

平塚市総合体育館・平塚市見付台体育館において開く。参加都道府県 4 0

本年度の JEF 総会において、今年度をもって第 4 代理事長前田耕作氏が勇退し、第 5 代理事長に稲石一雄氏を選出した。

『J E F NEWS』50 号 (夏号) を発行

J E F NEWS 発行責任者は次年度より稲石一雄理事長に代わる。

1994 年 (平成 6 年)

第 33 回 全国教職員大会・石川県で開催 金沢市 第 16 回懇親会を開く

同研修会「バドミントン競技に対する提言」河原山春夫氏 (金沢工業高校校長) 講演

金沢市総合体育館・石川県体育館において開く。参加都道府県 38

『J E F NEWS』51 号 (春号)、52 号 (夏号) を発行

1995 年 (平成 7 年)

第 34 回 全国教職員大会・鳥取県で開催 米子市 第 17 回懇親会を開く

同研修会「身体のケアについて」湊英之氏 (境港市立第二中学校教諭) 講演

米子市民体育館・米子産業体育館において開く。参加都道府県 39

11 月 23 日 今井 先氏逝去

『J E F NEWS』53 号 (春号)、54 号 (夏号)、55 号 (冬号) を発行

1996 年 (平成 8 年)

第 35 回 全国教職員大会・千葉県で開催 千葉市 第 19 回懇親会を開く

同研修会「バドミントンの障害の分析、怪我について」岡崎壮之氏 (川崎製鉄千葉病院

整形外科・スポーツ整形外科部長) 講演

千葉ポートアリーナ・千葉公園体育館において開く。参加都道府県 40

本連盟会長柴田勝治氏が亡くなられ、鯨岡兵輔氏(当時衆議院議会副議長)が第3代会長として就任された。

『JEF NEWS』56号(春号)、57号(冬号)を発行

1997年(平成9年)

第36回 全国教職員大会・和歌山県で開催 新宮市 第20回懇親会を開く

同研修会「体カトレーニングとバドミントン」瀬古周作氏(新宮商業高校教諭)講演

新宮市総合体育館・新宮高校体育館・新宮商用高校体育館・新宮市立勤労者体育館において開く。参加都道府県 37

『JEF NEWS』58号(春号)、59号(秋号)を発行

1998年(平成10年)

第37回 全国教職員大会・愛媛県で開催 松山市 第21回懇親会を開く

同研修会「バドミントンの障害と予防」喜多岡健二氏(NTT松山病院医師)講演

愛媛県総合運動公園体育館・松山市総合コミュニティセンター体育館において開く。

参加都道府県 40

来年度より敗者審判制度を廃止、派遣審判員規定制度を制定し明年より実施する。

『JEF NEWS』60号(春号)、61号(秋号)、62号(冬号)を発行

1999年(平成11年)

第38回 全国教職員大会・青森県で開催 青森市 第22回懇親会を開く

同研修会。古代ロマン「三内丸山古墳の神秘」をさぐる。

表彰積立金 300円 第1回派遣審判制度発足

青森市民体育館・青森県総合運動公園体育館・青森高校体育館において開く。参加都道府県 36 来年度より65才単・複の種目を新設する。

特別表彰 故鈴木祐司氏(秋田県)に授与、第1回大会から連続27回出場したため。

『JEF NEWS』63号(春号)、64号(秋号)を発行

2000年(平成12年)

第39回 全国教職員大会・三重県で開催 伊勢市 第23回懇親会を開く

同研修会「バドミントン競技の初期の歴史及びその当時のルールからバドミントンの原典を探る」を蘭和真氏(東海女子大学助教授)講演

表彰積立金 300円 第2回派遣審判制度行なわれる。

三重県サンアリーナ体育館において開く。参加都道府県 41

『JEF NEWS』65号(春号)、66号(夏号)、67号(秋号)を発行

『バドミントン・100問集』、2000年版発行(2000.8.1)

『バドミントン・100問集』、2001年版発行(2001.2.1)

2001年(平成13年)

第40回 全国教職員大会・福岡県で開催 北九州市 第24回懇親会を開く

同研修会「ジュニア育成と競技力向上について」

遠井稔男・横溝安伸・能登則男3氏による講演、司会稲石一雄氏

表彰積立金 300円 第3回派遣審判制度行なわれる。

北九州市立若松体育館・北九州市立総合体育館において開く。参加都道府県 41

『JEF NEWS』68号(春号)、69号(夏号)、70号(秋号)を発行

『JEF NEWS』69号(H13.7.20発行)は創立40周年記念特別号となる。

JEF 大会総合優勝制度実施される。

第 41 回大会以後

2002年（平成14年）

第41回 全国教職員大会・山梨県で開催 甲府市
同研修会「ルール研修会」 講師 日本教職員バドミントン連盟理事長 高橋英夫氏
今井基金設立（故今井 先氏の遺族から金 10 万円の寄付を受けて）
表彰積立金 300 円

第4回派遣審判制度行なわれる。派遣審判対策積立金 個人 1000 円 団体 5000 円
小瀬スポーツ公園体育館において開く。参加都道府県 40
『JEF NEWS』71号（春号）、72号（夏号）、73号（秋号）

2003年（平成15年）

4月1日 鯨岡兵輔会長逝去 会長代行 小泉直坦氏

第42回 全国教職員大会・宮崎県で開催 宮崎市
同研修会 「競技の勝敗は何によって決まるか？」講師 宮崎大学教授 廣田 彰氏
今年度の総会で、第4代会長に下村博文氏（衆議院議員）、第6代理事長に高橋英夫氏
氏が選任される。

8月8日 派遣審判員規程 一部改正（+表彰） 表彰積立金 300 円
第5回派遣審判制度行なわれる。派遣審判対策積立金 個人 1000 円 団体 5000 円
宮崎市総合体育館・宮崎県立体育館において開く。参加都道府県 42
『JEF NEWS』74号（春号）、75号（夏号）、76号（秋号）

2004年（平成16年）

第43回 全国教職員大会・島根県で開催 三刀屋町
同研修会 「ジュニア問題を引き受けるには」 筑波大学名誉教授 阿部一佳氏
表彰積立金 300 円

第6回派遣審判制度行なわれる。
三刀屋町文化体育館アスパル・三刀屋町立三刀屋体育館・大東公園体育館において開く。
参加都道府県 38
『JEF NEWS』77号（夏号）、78号（秋号）

2005年（平成17年）

第44回 全国教職員大会・栃木県で開催 宇都宮市
同研修会 「長谷川に訊け！」 講師 尚美学園大学 長谷川博幸氏

8月6日 全国ブロック理事会の開催 表彰積立金 300 円
今年度の総会で、第5代会長に関場 武氏（慶応大学教授）が選任される。
第7回派遣審判制度行なわれる。
栃木県体育館・宇都宮市立清原体育館において開く。参加都道府県 40
『JEF NEWS』79号（夏号）、80号（冬号）を発行

2006年（平成18年）

第45回 全国教職員大会・京都府で開催 京都市
同研修会 1「バドミントン競技におけるスポーツ障害と疾病」
講師 京都府高体連研究員 京都府立洛西高等学校 西村 元氏
2「新ルール勉強会」 講師 高橋英夫氏、今井正男氏

8月8日 規約一部改正（会員資格＋各種学校）
次年度より、団体加盟負担金 20,000 円 表彰積立金 1000 円に
第8回派遣審判制度行なわれる。
西山公園体育館・京都府体育館において開く。参加都道府県40
『JEF NEWS』81号（夏号）、82号（冬号）を発行

2007年（平成19年）

第46回 全国教職員大会・長崎県で開催 大村市
同研修会 「バドミントン競技で勝つための筋力トレーニングの実践と実際」
長崎県体育協会スポーツ医科学委員・マルヤジム代表 高西文利氏
8月4日 規約（会費）一部改正 団体加盟負担金 20,000 円 表彰積立金 1000 円
規約一部改正（会員資格＋非常勤）
第9回派遣審判制度行なわれる。
シーハットおおむら・長崎県立大村高校体育館において開く。参加都道府県40
『JEF NEWS』83号（秋号）、84号（冬号）を発行

2008年（平成20年）

第47回 全国教職員大会・茨城県で開催 牛久市・土浦市
同研修会 「競技者育成をトレンドから再考する」
筑波大学体育学系助教 吹田 真士氏
70歳以上男子単複、50歳以上女子単複をエキジビションとして開催
第10回派遣審判制度行なわれる。
牛久運動公園体育館・霞ヶ浦文化会館体育室で開催 参加都道府県42
『JEF NEWS』85号（秋号）、86号（冬号）を発行

2009年（平成21年）

第48回 全国教職員大会・兵庫県で開催 神戸市
同研修会 「バドミントンの生い立ち」
講師 甲南大学スポーツ・健康科学教育センター教授 鷗木千加子氏
8月10日 派遣審判員規程一部改正（開催県に20万円補助する）
第11回派遣審判制度行なわれる。
神戸市中央体育館・グリーンアリーナ神戸において開く。参加都道府県42
『JEF NEWS』87号（夏号）を発行

2010年（平成22年）

第49回 全日本教職員大会 鹿児島県薩摩川内市（サンアリーナせんだい）
参加都道府県
同研修会 「ゲーム分析から分かること」
講師：NPO 法人日本バドミントン指導者連盟理事長 渡辺 雅弘氏
第31回懇親会を開く
総会において派遣審判員規定を一部改正 来年度より宿泊補助費を審判のみの人は1泊
15,000 円、試合のある人は10,000 円とする。
第12回派遣審判員制度
『JEF NEWS』89号（夏号）、90号（秋号）を発行

2011年（平成23年）

第50回 全日本教職員大会 愛媛県松山市（愛媛県武道館・北条スポーツセンター
体育館） 参加都道府県41

同研修会「目からウロコの“マッスルケア”」

講師：キネシオテーピング協会 CKTI 指導員 畑中亮一氏

第32回懇親会を開く

本来は山形県で開催する予定であったが3月11日の大地震の影響で、急遽愛媛県に依頼し、開催にこぎつけた。山形県が用意していた「50回」のロゴを使用するなど、心温まる大会の開催となった。また今回は一般男子団体と一般女子団体に県知事賞が授与された。ちなみに中村時広県知事は関係会長の大学の教え子であり、バドミントン部員であった。

総会において3連覇の永久杯をやめ、代わりにレプリカを授与することを承認した。

今年度より単複に年齢をまたがって出場できるようになった。（ダブルスは若いパートナーの年齢以下の部に出ること。）

70歳以上男子単・50歳以上女子単は参加数が8を超えた。（正式な認可はまだであるが、日本協会より金メダルが授与された。）

従来より行われていた全関東教育系大学学生バドミントン選手権を、今年度より全日本大会として本連盟が主催することになった。そのため、今井先基金に本連盟役員有志の寄付を足してカップを新調した。

第13回派遣審判員制度

公益財団法人日本体育協会創立100周年を記念して、平田登志郎・里見光徳両氏が功労賞を受けた。

『JEF NEWS』91号（夏号）、92号（秋号）を発行

『JEF NEWS』92号（H23.10.1発行）は創立50周年記念特別号となる。

10月1日 「JEF 50周年記念の集い」開催 於：アルカディア市ヶ谷



第50回大会レセプション

左から：高橋理事長・桜内文城参議院議員・綿貫民輔日バ会長・中村時広愛媛県知事・野志克仁
松山市長

（感慨一入の高橋理事長。実は松山出身である。）

以下、文責は稲石一雄

第1回 全日本教育系学生バドミントン選手権大会

平成23年12月26日～28日

東京都（墨田区総合体育館、墨田区立両国中学校体育館）

26大学参加

優勝者は以下の通り

男子単 浦井唯行 (帝京大学)
男子複 鈴木翔太・渡部茂太 (帝京大学)
女子単 佐藤 楓 (筑波大学)
女子複 奥井智奈美・佐藤 楓 (筑波大学)

2012年(平成24年)

第51回 全日本教職員大会

長野県長野市(ホワイトリンク・長野運動公園総合運動場体育館)

参加都道府県42

同研修会「スポーツ歯学って何だろう」～私のスポーツ歯学実践～

講師:板東陽月氏(ばんどう歯科医院)

第33回懇親会を開く

70歳以上男子単・50歳以上女子単が正式種目となる。

桜内文城氏が名誉会長に就任。

教職員大会参加資格の一部改正

来年度から他連盟に加盟している選手でも参加できるようにした。総会で可決。

第14回派遣審判員制度

第2回 全日本教育系学生バドミントン選手権大会

平成24年12月20日～22日

東京都(葛飾区総合スポーツセンター)

23大学参加

優勝者は以下の通り

男子単 鈴木翔太 (帝京大学)
男子複 佐久間浩平・定宗隆一郎 (筑波大学)
女子単 奥 幸那 (筑波大学)
女子複 久保田奈緒・上原ちさと (東京女子体育大学)

『JEF NEWS』93号(夏号)、94号(秋号)を発行

2013年(平成25年)

第52回 全日本教職員大会 宮崎県宮崎市

(宮崎県体育館・宮崎市総合体育館)

参加都道府県40

同研修会『バドミントンとスポーツ障害』

講師:金谷正一氏(宮崎県公認アスレチックトレーナー・かなや鍼灸院)

第34回懇親会を開く

総会において参加資格について確認をした。

他連盟加盟者でも出場できるが、他連盟が禁止している場合は出場不可のこともある。

外部コーチの解釈を確認。

第15回派遣審判員制度

第3回 全日本教育系学生バドミントン選手権大会

平成25年12月21日～23日

千葉県・東京都(千葉商科大学・東京工業大学)

22大学参加

優勝者は以下の通り

男子単 山本皓策 (筑波大学)

男子複 森田 努・伊佐勇希 (帝京大学)
女子単 大久保敦美 (筑波大学)
女子複 三島幸子・吉澤麻衣 (東京女子体育大学)

『JEF NEWS』95号 (夏号)、96号 (冬号) を発行

2014年 (平成26年)

第53回 全日本教職員大会 東京都墨田区・葛飾区・台東区・江東区
(墨田区総合体育館・葛飾区総合スポーツセンター・
台東リバーサイドスポーツセンター・江東区深川ス
ポーツセンター)

参加都道府県41

同研修会『学校教育における部活動の意義と体罰の防止』

講師：上岡 学氏 (武蔵野大学教育学部教授)

第35回懇親会を開く

総会において参加資格について確認をした。

派遣審判員の褒賞について検討していることを報告。

第16回派遣審判員制度

稲石副会長・高橋理事長が日本バドミントン協会功労賞を受賞。

高橋理事長がBWF功労賞を受賞。BAC副会長に就任。

第4回 全日本教育系学生バドミントン選手権大会

平成26年12月27日～28日

東京都 (葛飾区総合スポーツセンター)

22大学参加

優勝者は以下の通り

男子単 加藤一郎 (帝京大学)

男子複 加藤一郎・齋藤謙太 (帝京大学)

女子単 漆崎真子 (筑波大学)

女子複 加藤美幸・柏原みき (筑波大学)

『JEF NEWS』97号 (夏号)、98号 (冬号) を発行

2015年 (平成27年)

第54回 全日本教職員大会 奈良県田原本町・大和郡山市
(田原本町中央体育館・奈良学園中学高等学校体育館)

参加都道府県41

同研修会『バドミントンとの歩み』

講師：銭谷欽治氏 (公益財団法人日本バドミントン協会専務理事)

第36回懇親会を開く

70歳以上男子複・50歳以上女子複が正式種目となる。

今年度から個人戦参加費が5000円となった。

総会において参加資格について確認をした。

派遣審判員の褒賞が来年度から表彰状授与となった。

第17回派遣審判員制度

第5回 全日本教育系学生バドミントン選手権大会

平成27年12月26日～27日

東京都 (葛飾区総合スポーツセンター)

21大学参加

優勝者は以下の通り

男子単 馬場湧生 (筑波大学)

男子複 加藤一郎・齋藤謙太（帝京大学）

女子単 大久保敦美（筑波大学）

女子複 綿矢汐里・柏原みき（筑波大学）

『J E F NEWS』99号（夏号）、100号（冬号）を発行

2016年（平成28年）

第55回 全日本教職員大会

鳥取県鳥取市（コカ・コーラ ウェストスポーツパーク体育館・鳥取産業体育館）

参加都道府県41

同研修会『LOVE BADMINTON－多くの仲間との出会いー』

講師：高橋英夫氏（公益財団法人日本バドミントン協会理事・本連盟理事長）

第37回懇親会を開く

第18回派遣審判員制度

第6回 全日本教育系学生バドミントン選手権大会

平成28年12月24日～25日

東京都（葛飾区総合スポーツセンター）

20大学参加

優勝者は以下の通り

男子単 馬場湧生（筑波大学）

男子複 馬場湧生・牧野桂太（筑波大学）

女子単 飯村梨衣子（東京女子体育大学）

女子複 加藤美幸・柏原みき（筑波大学）

『J E F NEWS』101号（夏号）、102号（冬号）を発行

以下続く